

よぬだ ところどころ



第三十九号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

天神洞と天山窯 テンザンガマ 天山はシルクロードの山脈名にちなむ



上図は、国土地理院平成十年の二万五千地形図に中山神社の旧位置と、現在地を入れたものである。天神洞には洞奥にため池があり、この水で中山神社の西の水田耕作が行われていたことがわかる。東海環状道白山トンネルの掘削が行われた際に、大量の岩石を天神洞の埋め立てに使用したため、旧中山神社の東筋の谷に堰堤を築き、新池を構築、その下の西山際に神社を移転したものである。この付近は人家もほとんどなかったため、天山窯という登り窯が川合の陶芸家の手で開窯されたという経緯がある。この場所に窯を開いた動機としては、薪窯による煙がご近所に迷惑にならないことや、背後が丘陵地の斜面のため、火の勢

いが強くなり、陶器の焼成には都合がよかったなどという点にある。お話によれば、この近辺に開窯の適地を求めて色々と探したということであった。

薪窯の焼成は年間二回、春と秋におこなわれるということであるが、可児市から多治見市の古窯跡の分布をみても、窯の焼成に向いた丘陵地・山の斜面が選定されている。

元々、焼き物焼成産地は、原料の陶土や燃料の松を供給する場所を指向するということであるが、最近では周辺の環境に配慮しなければならなくなったようである。

上写真は天山窯後ろは中山神社 軽自動車の左前には窯焼成のための薪が積まれている。

